

## 米取引に関する有識者との懇談会概要

1. 日時：平成25年2月8日（金）10:00～12:10
2. 場所：農林水産省第3特別会議室
3. 概要：

（平成24年産米をめぐる状況について）

- 集荷は前年産実績を上回る見込み。また、契約・販売数量は、当初前年同期を上回っていたものの、直近では販売数量の落ち込みが見られるとの意見。
- 産地によって販売の好不調が分かれているとの意見。
- 業務用では22年産価格が商品設計の基準とされており、ここ2年の値上がりは異常で、現在の価格水準は、関係団体が団結して行動せざるを得ないほど、実需者の経営を圧迫している。また、実需者は商品の米の量を減らすこと等で対応せざるを得ず、これが米の消費減少に繋がることを懸念しているとの意見。
- 23年産では年明け以降に生産者の持っていた米が出てきたケースも見られ、24年産でも価格の動向を見ながら、在庫として持つ生産者や、過剰作付けが減少している中、手取り水準を最優先に取り組む生産者が増えているのではないかととの意見。
- SBS入札で入札毎に平均売渡価格及びマークアップの上昇がみられるのは現在の米価水準を反映してのものとの意見。
- ネット販売や産直が増えており、流通構造の変化が顕著になってきているのではないかととの意見。
- 小売段階では無洗米より通常の精米、2kg袋より特売の5kg袋の販売が伸びており、消費者は産地ブランドを変えずに安い形態のものを購入している傾向が伺えるとの意見。

（その他）

- 政府備蓄米の買入れ手法の見直しについて評価する意見。また、意図するところでないと思うが25年産備蓄米の落札価格が25年産米価格に影響を与えることとなる懸念があるとの意見。
- 25年産の加工用米について、地域によっては備蓄米への移行の動きが見られる、また、現時点で全体数量は見通し難しいとの意見。
- 25年産の販売単価は上げられる環境にない中で、25年産価格に対する生産側と流通側の考え方にギャップが生じることを懸念するとの意見。
- 価格形成に関し、価格安定のためには、売り手側と買い手側との間で取引条件について何らかのルールを決めておくことが必要との意見のほか、再生産可能な価格であることが重要との意見。
- 今後、農家数の一層の減少や高齢化に伴う設備投資意欲の減退等が予想される中、将来的に生産量をいかに確保するかを考える時期に来ているとの意見。
- 政策の意図が生産現場に十分浸透するよう、政策の伝え方を工夫する必要があるとの意見。